

## 桜 島

### 火山活動度レベル

レベル 3 (活発な火山活動) で経過しました。

### 概 況

南岳山頂火口では、噴火<sup>1)</sup>を 1 回観測しましたが、爆発的噴火<sup>2)</sup>はありませんでした。昭和火口では、噴火は観測されませんでした。

火山性地震や継続時間 1 ~ 3 分の火山性微動はやや多い状態で経過しています。7 月下旬には、一時的に B 型地震や火山性微動の振幅のやや大きいものが観測されました。

#### ・噴煙・噴火活動の状況(表 1、図 2, 3)

南岳山頂火口では、7 月 30 日に噴火が発生し、灰白色の噴煙が高さ 1000m まで上がりました。また、ごく小規模の噴火は 7 月 9 日と 28 日から 31 日に時々観測しました。

昭和火口では、時々白色の噴煙を上げていましたが、噴火は観測されませんでした。

#### ・地震・微動活動の状況(表 3、図 2、3、5)

B 型地震や火山性微動はやや多い状態で経過し、7 月下旬には振幅のやや大きいものも観測されました。A 型地震は少ない状態で経過しています。

#### ・降灰の状況(表 2、図 2、3)

鹿児島地方気象台における観測<sup>3)</sup>では、降灰は観測されませんでした。

#### ・地殻変動の状況(図 6)

G P S 連続観測による地殻変動観測では、長期的に東西方向のわずかな伸びの傾向が続いています。これは始良カルデラへのマグマの注入によるものと考えられます。

- 1) 桜島では噴火活動が活発なため、噴火のうち、爆発的な噴火もしくは一定規模以上の噴火の回数を計数しています。資料の噴火回数はこの回数を示します。
- 2) 桜島では、爆発地震を伴い、爆発音または体感空振または噴石の火口外への飛散を観測、または O 点空振計で 3 Pa 以上、あるいは島内の A 点、D 点、E 点空振計のいずれかで 10 Pa 以上の空振を観測した場合に爆発的噴火としています。
- 3) 鹿児島地方気象台(南岳の西南西、約 11km)における前日 09 時~当日 09 時に降った 1 m<sup>2</sup>あたりの総降灰量を観測しています。

---

震央分布図等の資料作成にあたっては、気象庁のデータの他、鹿児島大学、京都大学、独立行政法人防災科学技術研究所のデータを使用しています。また、地図の作成にあたっては、国土地理院の承認を得て、同院発行の数値地図 50m メッシュ(標高)、25000 分の 1 の地形図を使用しています(承認番号:平 17 総使、第 503 号)

表 1 最近 1 年間の月別噴火回数(2005 年 8 月～2006 年 7 月)

2005～2006 年	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月
噴火回数	-	2	2	1	2	1	3	-	2	1	17	1
爆発的噴火	-	-	-	1	1	1	3	-	1	1	1	-
噴火日数	6	7	12	11	3	2	4	7	13	3	16	5

7 月 30 日に南岳山頂火口で噴火が発生しました。  
 今月は、昭和火口からの噴火は観測されませんでした。  
 噴火日数にはごく小規模の噴火があった日も含まれます。  
 6 月の噴火回数 17 回のうち 15 回は昭和火口からの噴火です。

表 2 最近 1 年間の月別降灰量と降灰日数(2005 年 8 月～2006 年 7 月)

2005～2006 年	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月
降灰量(g/m <sup>2</sup> )	-	2	0	1	-	-	-	-	-	-	5	-
降灰日数	-	2	5	1	-	-	-	-	-	-	9	-

鹿児島地方気象台における観測では、7 月は降灰がありませんでした。  
 「-」は降灰なし、「0」は 1 m<sup>2</sup>あたり 0.5 g/m<sup>2</sup>未満を表します。

表 3 最近 1 年間の地震・微動回数(B 点：2005 年 8 月～2006 年 7 月)

2005～2006 年	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月
地震回数	132	303	202	485	532	1128	586	1933	4136	2471	1892	2158
微動回数	2	5	0	2	21	12	13	16	73	130	138	183

火山性地震や火山性微動はやや多い状態が続いています。

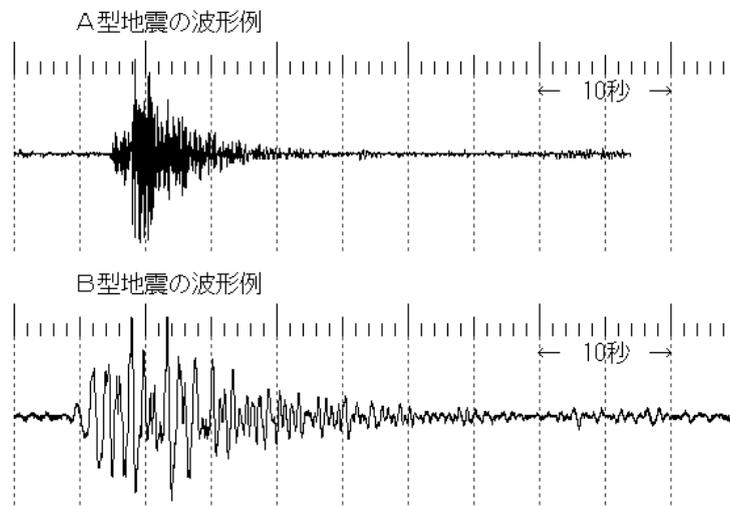


図 1 桜島における A 型地震と B 型地震の波形例

桜島で発生する火山性地震には、マグマの貫入に伴う火道周辺の岩盤破壊によって発生する、高周波で P・S 波が明瞭な A 型地震や、マグマが火道を上昇するときの柔らかい部分の破壊やマグマの発泡現象によって発生する、低周波の B 型地震などがあります。

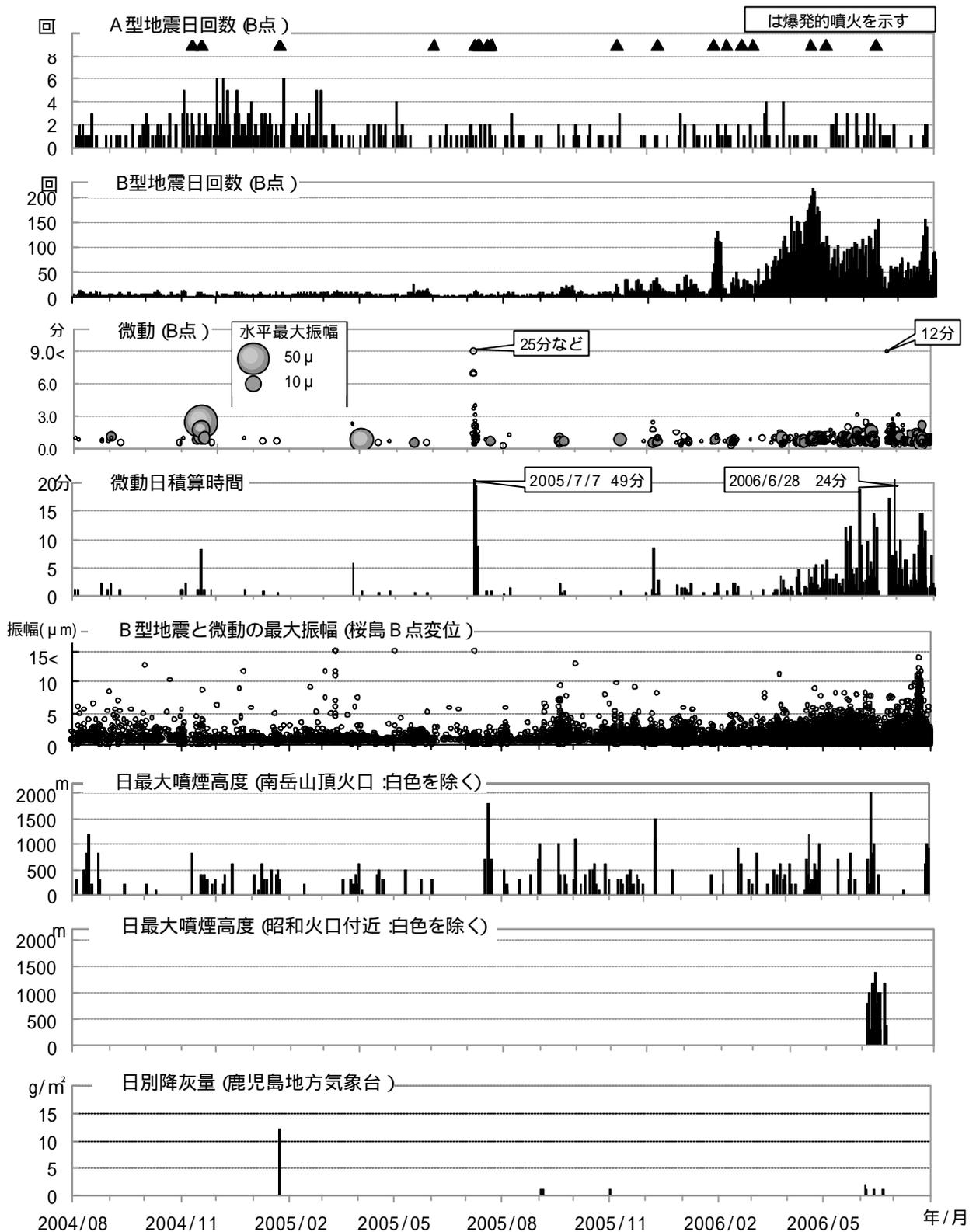


図2 最近2年間の火山活動経過図(2004年8月~2006年7月)

A型地震は、少ない状態で経過しています。

B型地震や火山性微動はやや多い状態で経過し、7月下旬には一時的に振幅のやや大きいものが観測されました。

南岳山頂火口では、7月30日に噴火が発生し、噴煙が1000mまで上がりました。

昭和火口では、7月は噴火は観測されていません。

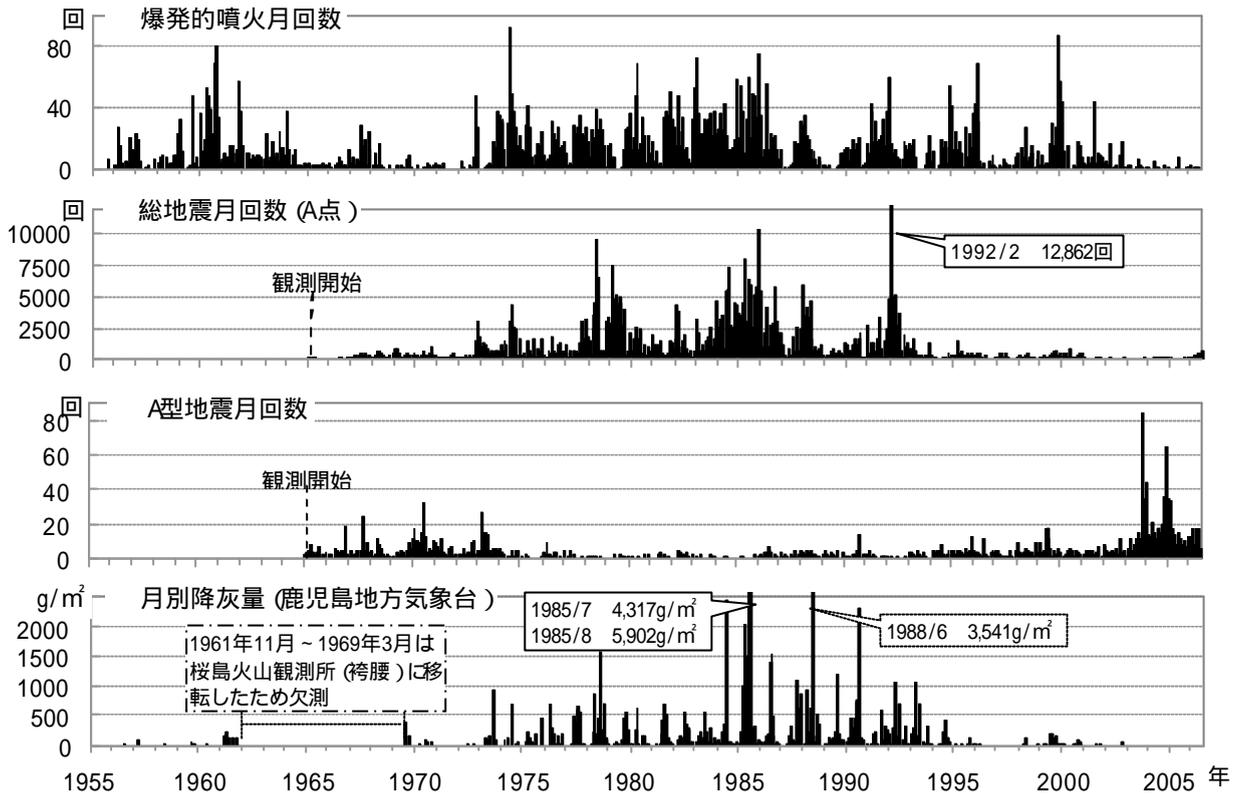


図3 長期の火山活動経過図(1955年1月～2006年7月)  
爆発的噴火や火山性地震は、長期的には少ない傾向が続いています。

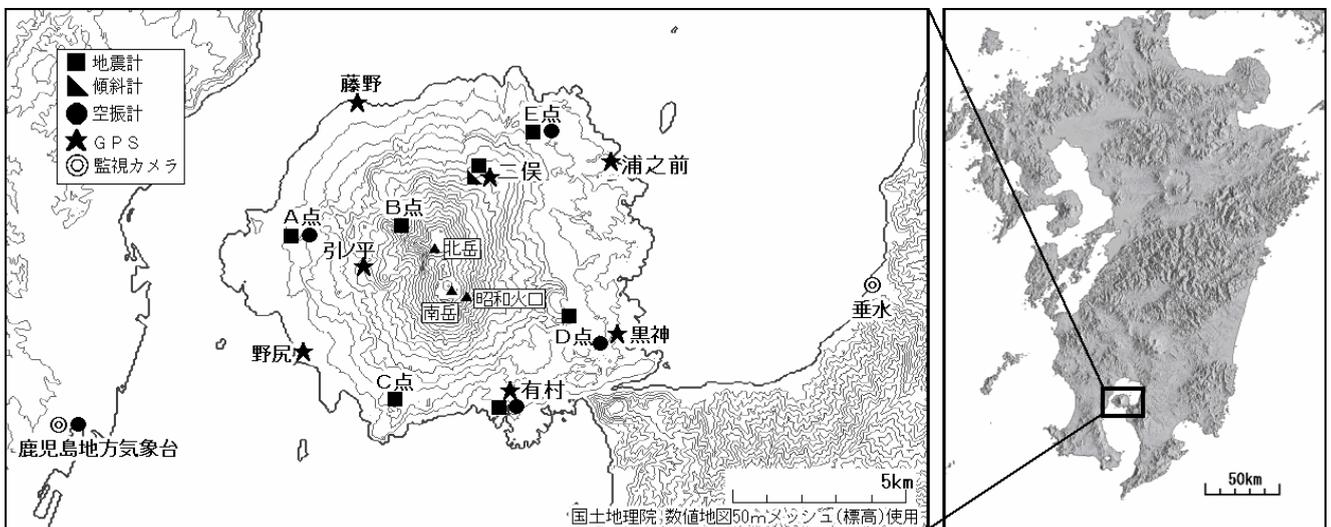


図4 桜島観測点配置図  
7月19日から31日にかけて、GPS 4点、地震計 2点、空振計 1点、傾斜計 1点を増設しました。

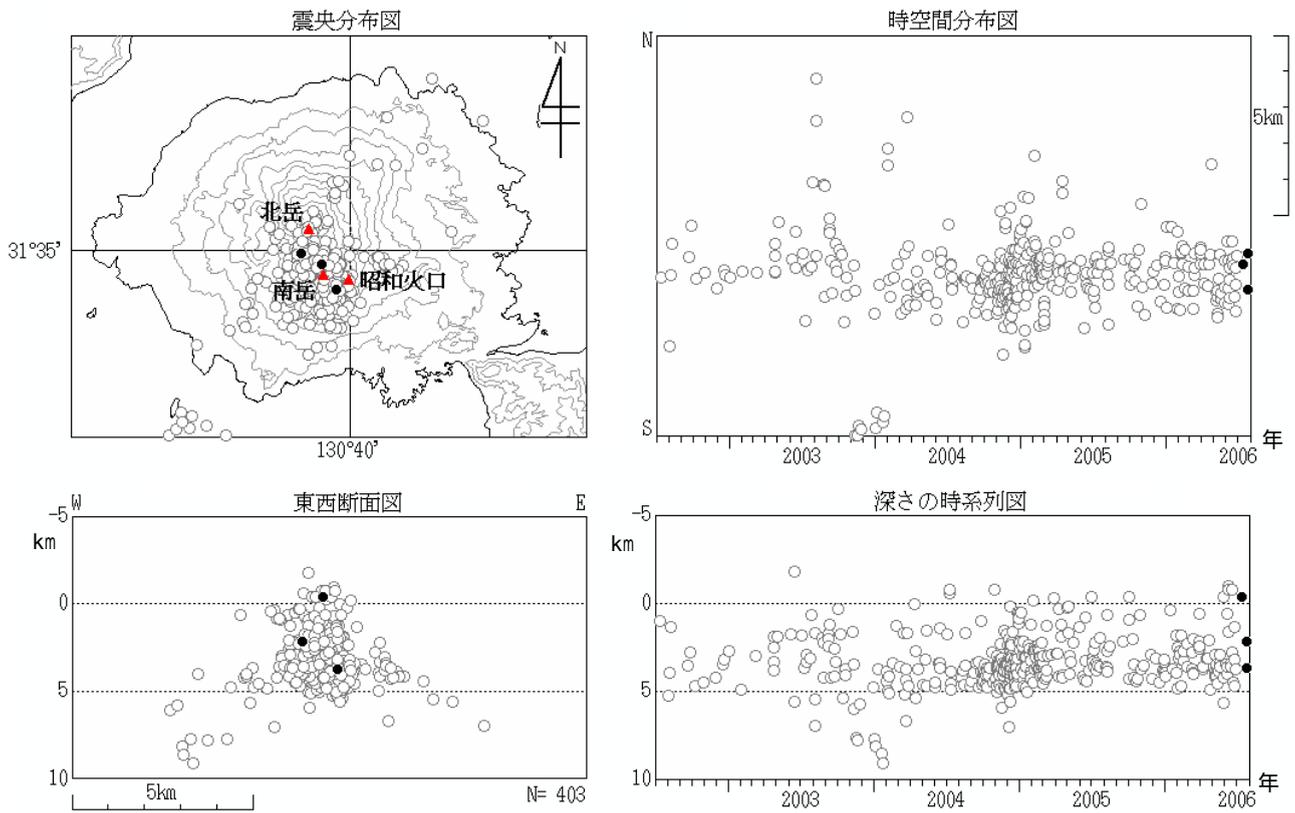


図 5 震源分布図(2002 年 7 月 ~ 2006 年 7 月)

7 月に求まった A 型地震の震源は 3 個でした。

今期間の震源は黒丸で表示しています。

本資料は、気象庁データの外、鹿児島大学、独立行政法人防災科学技術研究所のデータを用いて作成しています。本資料の地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図 50mメッシュ(標高)を利用しています。

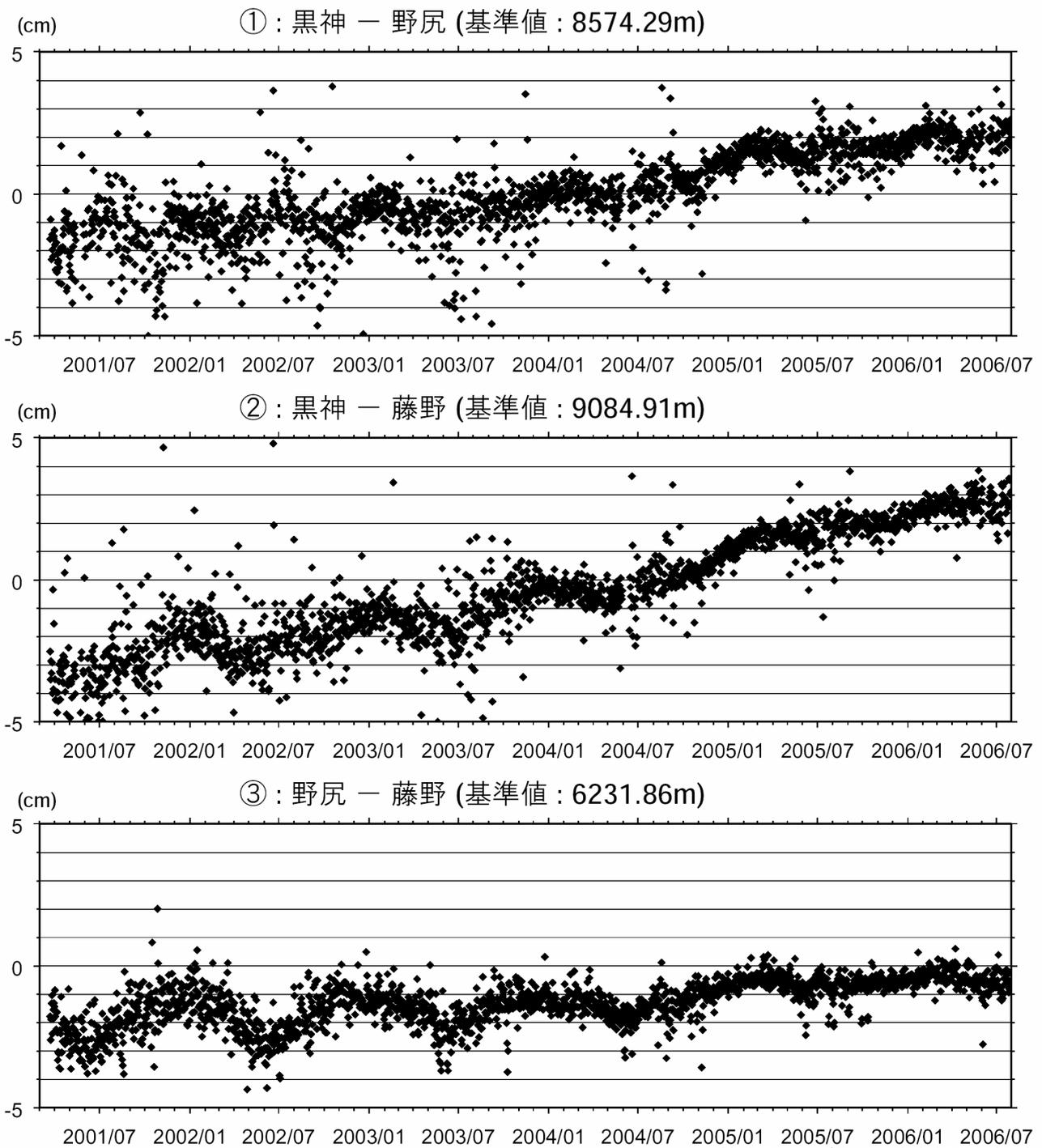


図 6 GPS による基線長変化(2001 年 3 月 22 日 ~ 2006 年 7 月 31 日)

GPS 連続観測による観測では、長期的には東西方向にわずかな伸びの傾向が続いています。

GPS 観測点 4 点を新設しましたが、まだデータが少ないため今回は掲載していません。

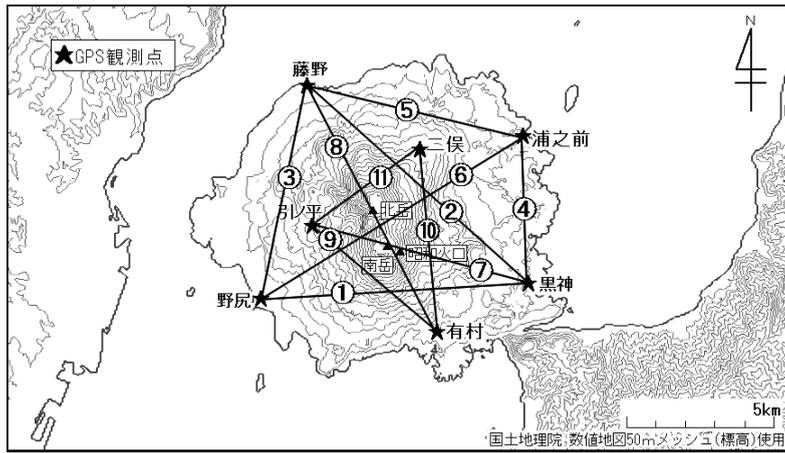


図7 GPS連続観測点と基線番号

7月に二俣、浦之前、引ノ平、有村にGPSを新設し、観測を開始しました。